

〈研究ノート〉

## 地域活動を通じた学生の主体形成に関する研究 —「第8回伯耆の手づくりまつり」アンケートから—

國本真吾・板倉一枝・塩野谷 齊\*・土井康作\*

Shingo KUNIMOTO, Kazue ITAKURA, Hitoshi SHIONOYA, Kosaku DOI :

A Study of Promoting Independence in University and College Students through Regional Activities  
—From the Questionnaires of “The 8th Handmade Festival in the Hoki-Area of Tottori”—

大学・短期大学等の高等教育機関の地域貢献が求められる昨今、その機会を学生教育の一環として位置づけることが可能である。本稿では、「第8回伯耆の手づくりまつり」(2004年5月22日開催)にスタッフとして参加した学生に対するアンケート調査をもとに、参加の動機、準備過程、当日の様子など、活動に携わった一連の過程の中でどのような変化を示してきたかを分析した。その結果から、大学生が地域活動においてどのように主体形成を図り、また心的に変化しているかを明らかにし、地域活動が学生教育に果たす役割について考察した。

キーワード：主体形成 大学生 地域活動 参加・参画 大学の地域貢献

### はじめに

近年、大学・短期大学・高等専門学校などの高等教育機関では、教育・研究活動と合わせて、「地域社会」との関わりを重視する取組みが積極的に実施されている。例えば、文部科学省が募集する「現代的な教育ニーズ取組支援プログラム」(通称「現代GP」)では、地域社会の活性化に資するために、大学等が持つ人的・物的資源を活用しながら、身近もしくは広範な地域社会と組織的に連携して、学生教育を行う取り組みを支援する「地域活性化への貢献」分野のテーマを設定している。このテーマでは、事業開始の2004年度は246件の申請に対して36件が採択さ

れ、2005年度は地元密着型・広域展開型合わせた269件に対し45件、2006年度は地元型・広域型合わせた217件に対し47件が採択された<sup>1)</sup>。

「地域」は、教育・研究活動のフィールドワークの場や対象に限定されず、学生自身にとってはNPO (Non-Profit Organization)・ボランティア活動でそこにいる人々と繋がり、またそのような活動を通じて地域貢献も可能なものである。特に、多くの学生は、「学校から社会へ」「子どもから大人へ」という2つの移行 (transition) を抱える「青年期」というライフステージに位置し、人間的にも大きな発達や変化を伴うことが想像される。この時期に経験する活動は、日頃の大学教育とは異なる変化や主体形成の可能性が期待される。

その一方で、社会的には若者世代の「ニート (NEET; Not in Education, Employment, or Training)」, 引きこもり, モラトリアムの拡大など、

\*鳥取大学地域学部地域教育学科 (学習科学講座生活能力論分野)

多くの問題が指摘されている。これらの問題は、大学生において不問であるとは言えず、さらに教育・研究活動、地域活動等を通じた大学の学生教育においても看過できない事柄といえよう。

そこで、本稿では地域活動を通じた学生の主体形成の過程を探り、今後の学生教育の在り方に向けた課題を考察した。

### 1. 調査目的

本調査の目的は、鳥取大学地域学部の土井康作研究室と民間教育団体の「子どもの遊びと手の労働研究会」鳥取支部が主催した「五月だ!! 因幡・伯耆の手づくりまつり」(以下「手づくりまつり」)に参加した学生の地域活動における主体形成の過程を検討することにある<sup>2)</sup>。

### 2. 調査方法

#### (1) 調査対象

調査対象は、2004年5月22日に実施した「第8回五月だ!! 伯耆の手づくりまつり」(会場：鳥取短期大学)のスタッフ(手づくり・遊び体験コーナー、運営補助)であり、スタッフの所属は鳥取大学・鳥取短期大学・鳥取環境大学・鳥取保育専門学院の学生である。

#### (2) アンケートの構成及び調査方法

アンケートの項目の構成は、1)参加当初時(活動に参加するきっかけを含め)の段階、2)準備作業の段階、3)当日の段階、4)手づくりまつり終了後の段階の4つの段階から成る。

また、アンケートは手づくりまつりの終了後、「『第8回 五月だ!! 伯耆の手づくりまつり』への参加に関する調査」として参加学生全員(45人)に配布し、2週間後に回収した。

### 3. 結果及び考察

アンケートは、23名の学生(回収率51.1%)から回答を得た(表1参照)<sup>3)</sup>。ここでは、目的にも挙げる学生の主体性の部分に注目して報告する(詳細は表2参照)。

表1 回答者の概要

No	性別	年齢	所属機関	学年	参加回数	当日の役割
1	男	21	鳥取大学工学部	4	3	木で作るおもちゃ
2	女	21	鳥取大学農学部	3	2	網作り
3	女	20	鳥取大学地域学部	1	1	かわいい木の椅子
4	男	18	鳥取大学地域学部	1	1	ジグソーパズル
5	女	21	鳥取大学教育地域科学部	4	4	全般
6	女	19	鳥取短期大学幼児教育学科	2	1	伝承遊び
7	女	19	鳥取短期大学幼児教育学科	2	1	写真立て
8	女	20	鳥取短期大学幼児教育学科	2	1	全般
9	女	19	鳥取短期大学幼児教育学科	2	1	光る泥団子
10	女	20	鳥取短期大学専攻科	1	1	おにぎり
11	女	19	鳥取短期大学幼児教育学科	2	1	おにぎり
12	男	19	鳥取短期大学幼児教育学科	2	1	手伝い
13	女	19	鳥取短期大学幼児教育学科	2	1	まがたまづくり
14	女	19	鳥取短期大学幼児教育学科	2	1	マジックスクリーン
15	女	20	鳥取短期大学専攻科	1	1	こけだまづくり
16	男	21	鳥取大学教育地域科学部	4	4	マジックスクリーン
17	女	18	鳥取大学地域学部	1	1	光る泥団子
18	女	18	鳥取大学地域学部	1	1	光る泥団子
19	男	23	鳥取大学大学院	2	5	全般
20	女	20	鳥取環境大学	2	1	シルクスクリーン
21	男	19	鳥取保育専門学院	2	1	光る泥団子
22	男	21	鳥取大学教育地域科学部	4	4	光る泥団子
23	男	23	鳥取大学大学院	2	5	写真立て

地域活動を通じた学生の主体形成に関する研究

表2 回答一覧

No 1	2	3	4	5			6			7	8	9	10	11	12	13
				内容	相手	印象	1)	2)	3)							
1	自分を楽しんだり、一緒に活動する楽しさを感じた。手芸工作も楽しかった。	1	NA	NA	材料や準備ができたので、子供でも楽しめると思った。手芸工作も楽しかった。	NA	NA	NA	NA	NA	2	2	2	2	2	今後は自分の活動の場として、子供でも楽しめるようにしたい。
2	仲間を助けた。自分も頑張った。	0	NA	NA	子供たちと一緒にやること。手芸工作も楽しかった。	NA	NA	NA	NA	1	1	1	1	1	1	仲間を助けた。自分も頑張った。
3	子供たちと楽しく活動する楽しさを感じた。	1	Mさん	Mさん	Mさんがとても楽しそうに活動していた。子供たちも楽しそうに活動していた。	Mさん	Mさん	Mさん	Mさん	1	1	1	1	1	1	子供たちと楽しく活動する楽しさを感じた。
4	自分の活動の場として、子供でも楽しめるようにしたい。	0	NA	NA	子供たちと一緒にやること。手芸工作も楽しかった。	NA	NA	NA	NA	1	1	1	1	1	1	自分の活動の場として、子供でも楽しめるようにしたい。
5	初めての活動が楽しかった。自分も頑張った。	2	D先生	D先生	D先生がとても楽しそうに活動していた。子供たちも楽しそうに活動していた。	D先生	D先生	D先生	D先生	1	1	1	1	1	1	初めての活動が楽しかった。自分も頑張った。
6	子供たちと楽しく活動する楽しさを感じた。	NA	S先生	S先生	S先生がとても楽しそうに活動していた。子供たちも楽しそうに活動していた。	S先生	S先生	S先生	S先生	1	1	1	1	1	1	子供たちと楽しく活動する楽しさを感じた。
7	光る紙飛行機の作り方を学んだ。自分も頑張った。	1	T	T	Tがとても楽しそうに活動していた。子供たちも楽しそうに活動していた。	T	T	T	T	1	1	1	1	1	1	光る紙飛行機の作り方を学んだ。自分も頑張った。
8	光る紙飛行機の作り方を学んだ。自分も頑張った。	1	S	S	Sがとても楽しそうに活動していた。子供たちも楽しそうに活動していた。	S	S	S	S	1	1	1	1	1	1	光る紙飛行機の作り方を学んだ。自分も頑張った。
9	光る紙飛行機の作り方を学んだ。自分も頑張った。	1	H	H	Hがとても楽しそうに活動していた。子供たちも楽しそうに活動していた。	H	H	H	H	1	1	1	1	1	1	光る紙飛行機の作り方を学んだ。自分も頑張った。

10	子ども達の大学の交流を促したいと思った。	0 NA	振り方	0 NA	女性相手になった。特になし	なまぐり子どことも分けがけで作った。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	1	2	おにぎりの振り方が上手になりました。あと、講師の人たちと仲良しになりました。	3	もっとおにぎりのやりかたを知りたいと思った。おにぎりの作りかたがわかるようにしたい。
11	初めは友達に「誘われたいな」といって、友達に誘われてうれしかった。友達に誘われてうれしかった。	0 NA	手順、何をするか	0 NA	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	MA	MA	子どもとふれあう機会ができた。おにぎりの作りかたがわかるようになった。	3	おにぎりの作りかたがわかるようになった。
12	「何か手伝いが出来た。うれしいな」といって、友達に誘われてうれしかった。	0 NA	NA	NA	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	NA	NA	NA	おにぎりの作りかたがわかるようになった。	3	おにぎりの作りかたがわかるようになった。
13	なんでも手伝いしようと思った。友達に誘われてうれしかった。	1	1	1	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	1	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。
14	どんなことでもやるのが好きです。	1	1	1	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	1	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。
15	友達と交流が深まればよいなと思った。	1	2	NA	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	1	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。	3	おにぎりの作りかたがわかるようになった。
16	今回で4回田に入るから、友達と一緒に参加したい。	0 MA	子ども達の作り方を教えること	0 MA	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	1	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。
17	子どもと一緒に自分も楽しみたい。	4	1	H	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	1	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。
18	楽しそうだったから、友達と一緒に参加したい。	4	1	H, D 先生	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	1	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。
19	他大学の学生との交流が深まればよいなと思った。	0 NA	NA	NA	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	1	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。
20	手を貸したり物を作ったりに興味があった。	1	1	S さん	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	1	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。
21	2年でも参加できる人はいないから、友達と一緒に参加したい。	1	1	NA	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	1	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。
22	友達と一緒に自分も楽しみたい。	0 MA	NA	NA	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	1	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。
23	1年ではないから、友達と一緒に参加したい。	0	2	H	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	おにぎりや弁当も自分で作ることができた。	1	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。	2	おにぎりの作りかたがわかるようになった。

(1) 各段階における学生の意識とその変化

1) 参加当初時の段階

手づくりまつりへ参加したきっかけは、在籍する大学等の教員から誘われた者が13名、友人・知人の学生から誘われた者が5名であった。それ以外は、「毎年研究室の学生は参加しているのだから」(No5, 16)、「そういう雰囲気だから」(No22)といった、比較的消極的な動機も見られた。

しかし、きっかけは様々であっても参加にあたっての思いは異なり、特にNo5の学生は「初めて自分が指示を出す方になることで、とても緊張したが、頑張って役に立ちたいと思った」(No5)というように、肯定的に受け止めていた。また、他大学との交流に期待を寄せる者もあった (No9, 10, 19)。

2) 準備作業の段階

手づくりコーナーを担当する学生は、事前に講師を務める地域の方との打合せ・試作品制作に取り組むこととし、訪問回数は0～4回に分布した。最も回数が多かったNo18の学生は、訪問回数4回であった。この学生の担当コーナーは「光る泥団子」であり、このものづくりには「試行錯誤的・実験的」な作業が必要とされ、回数が増えたと考えられる。

3) 当日の段階

「伯耆の手づくりまつり」当日、学生は担当する各コーナーにおいて、子どもやその保護者に対する指導に直接あたった。その中で、子どもたちから学生自身が何に気づかされたか分析した。

直接的指導では、子どもの熱心に取組む姿勢を挙げた回答 (No2, 4, 7, 13) や、子どもの経験不足を指摘する回答 (No8, 10) が認められた。この他、子どもたちの中で自然発生的に見られた相互教育 (教えあい、助け合い) を挙げる回答 (No9) や、「一緒に話していて、見た感じよりも大人びた話の内容や受け答えをしていて、小学生とはいっても、もう大人と同等だなと感じました」(No15)、「自分が子どもに心をひらかないと、相手も開いてくれないと思った。逆に開けば開いてくれる」(No17) など学生自身の子ども観を再認識する機会となった回

答があった。

このことから、学生たちは直接的指導を通して、児童の情意、技能、コミュニケーションの状況を客観的に捉えていること、さらに学生自身の子どもを観る眼が変化していることがわかった。

4) 手づくりまつり終了後の段階

次年度開催時に参加するかどうかの意向に対しては、回答が分かれた。「ぜひ次回も参加したい」としたのは9名、「分からない」としたのは8名、「次回は参加しない」としたのは6名であった。

初めて参加した入学学年の学生 (鳥取短期大学専攻科は除く) は、4名全員が「次回も参加したい」とした。また、「分からない」と態度保留した8名の学生は、すべて各大学・専門学校の最終学年に位置しており、卒業 (修了) 後も機会があれば関わりたい意欲を示している者もいた。しかし、「次回は参加しない」とした学生は、帰省先・就職先が遠く離れることや、単に「卒業するから」という理由を挙げている。これらの結果から、手づくりまつりに「卒業後も継続して関わる者」と、逆に「学生時代の活動として完結する者」とに分けられよう。

このように学生間に、手づくりまつりの取り組みに対する温度差があることが分かった。

(2) リーダー的役割の学生の変化

学生スタッフの中から、運営面全体を統括するものと、各大学スタッフのチーフ役を務める、いわばリーダーシップを発揮した2名の学生を対象に、調査回答から、意識の変化を分析した。

1) 統括者の場合 (No5)

運営全体の統括を担った学生は、入学以来毎年参加し、主催本部である鳥取大学の研究室に所属していることから、初めて全体統括者として選出された。本学生は、手づくりまつり全体の動きを把握する重要な役割を担うため、直接にコーナーを担当しなかった。

今回の参加について、「初めて自分が指示を出す方になるということで、とても緊張したが、頑張って

て役に立ちたいと思った」とし、リーダー役を全うしようという意欲が溢れていた。他の学生のようにコーナーを担当はしなかったが、前回大会のリーダー役を務めたNo19の学生、運営に携わる各大学の教員、各コーナー担当の講師、関係機関先などとの直接連絡や訪問によるアドバイスを頻繁に重ねた（回答上は、講師への訪問回数を計上）。

準備過程や当日において困ったことは、「他大学の学生が多く参加してくれたことによって、ブースごとに連絡を取るのが大変だった。日程を合わせるのも大変だった。適確で、迅速な指示が出せなかった。（私自身が把握しきれなかった。）」と振り返り、準備面や作業面での指示に苦労したことがうかがえる。その際、前回大会で同じ役を担ったNo19の学生が相談相手となり、動きの面でも極めて重要なモデルとしていたことがわかった。

今回参加したことにより自分自身のためになったこととしては、「自分一人でやってしまう方が楽だと思って、私は一人でやろうとしてしまったが、もっと効率よく考えて、他の人と意見を交換しながら、やった方がいいと思った」と回答した。自分自身を客観視しながら、効果的な準備の在り方に気づいていると言えよう。また、手づくりまつりへの期待や要望事項として、会場やスタッフ・講師の固定化を求めるとともに、「学生スタッフがもっと講師の方と話す時間（企画を考える時間）をもてるようになるといいと思う」ということを挙げていた。全体を統括する立場であるが故、それまで気づかなかった部分に目が行くこととなったが、統括役の自分とそれぞれの学生の密な連絡以上に、実際にコーナーを掌る講師と学生スタッフ相互のコミュニケーションの必要性を挙げたところが特徴的である。自身が務めた役を支え、また手づくりまつり全体を支えるもとのが、参加者と直に接するコーナーであるという認識であろう。

以上のように、全体統括を行うことによって、自己を客観視する力とともに、取組む活動全体を客観視していく力が高まっていることが指摘できる。

## 2) 大学代表チーフの場合 (No8)

当該学生は、会場となる鳥取短期大学の学生チーフ役を務め、開催地と主催本部の間の連絡役を担った。初参加であるため、先の統括役の学生とは、手づくりまつりの全体像も想像しにくいところが異なる。

参加にあたっての思いは、「4つの大学専門学院が合同で行うという今だかつてないスケールの大きい企画だったこと」という、他大学や専門学校生との交流に大きな期待を寄せていた。鳥取短期大学側の学生スタッフチーフ役に留まらず、「ひものネクタイ」の手づくりコーナーも担当し、事前に講師のもとにも訪問している。訪問については、「事前に顔合わせすることで、コミュニケーションがとりやすく、当日の役割分担や用意がとてもスムーズに行うことが出来た。また、実際に担当の方に、指導していただき、作品を作ることで、当日、どのような説明、声かけ、注意事項をしなければならないかということについて、考えることが出来た」と振り返り、講師とのコミュニケーションを高め、当日の自分の動きをイメージする契機と理解している。また、動きの面でのモデルは、全体を統括したNo5の学生を挙げた。

手づくりまつりへの参加を通してためになったことは、「子どもが作品を作り終えた後の笑顔に寄せる充足感、達成感」と、子どもの姿から感じ取ったものをまず挙げた。次に、「イベントを作り上げていく上での各機関や地域の方とのネットワークつながり、またその重要性を知ることが出来たこと」とし、「自分のネットワークも広がったこと」と回答している。多くの人々が繋がって出来るイベントの意味と、それに参加する者同士の横の繋がりを、身をもって経験したことがうかがえる<sup>4)</sup>。

手づくりまつりへの期待や要望としては、「せっかくそれぞれのブースに講師の方がおられ直接指導していただける機会であるため、時間的な面で難しいことではあるかもしれないが、少しでも、また一つでも多くの製作の体験をスタッフとして参加した

学生も出来るような時間がほしい」と回答した。本学生は初参加ながらも、手づくりまつりの活動の中身や実施意義の魅力に引き込まれている。それゆえ、最終学年ながらも次回への参加意思を示しており、今回の反省点を次に生かす積極的な姿勢が顕著に認められた。

#### 4. 討 論

今回対象とした「因幡・伯耆の手づくりまつり」を通して、学生の主体形成がどのように読み取れるかを深めたい。

参加への動機(きっかけ)を見ると、特定の教員や学生を介してのものがほとんどであり、特に毎回参加している学生は「参加するものだ」という雰囲気の中で続けている。よって、「手づくりまつりのことを知ったから、自分からやりたい」というような積極的な姿勢で、全員がスタッフとして参加しているわけではない。しかし、コーナーや運営面で自分が担当する役割が決まり、当日までの準備に携わる中で、徐々に意識が変化している。これは、活動の「プロセス」が、彼らに大きな影響を与えているといえよう。

例えば、手づくりまつり当日のみのスタッフ参加であれば、活動全体を見据えた動きは取りづらく、

個々の持ち場にしか目が行かない。No12の学生がその例であるが、No8をはじめとする多くの学生が実感した他大学の学生との交流については、当日のみの参加では十分とはいええない。No12の学生が、「正式なスタッフになれば、鳥大や環境大の人ともしっかりと交流出来たかもしれない」と回答したように、準備過程の段階から関わったか否かで、「参加」の質も学生間で異なってくるのである。

林義雄が示した「一般参画理論」における「参加の3段階」では、表3のように「いあわす」(参集)、「かかわる」(参与)、「にないあう」(参画)の3つの段階が挙げられている<sup>9)</sup>。手づくりまつりにおける学生スタッフも、この段階に基づけば3類群に分けられるが、いかにして学生の段階を高次化させるかが課題となろう。その際には、本人の主体性・自発性が変化することを伴い、逆に主体性の発揮なくしては高次化もなし得ないのである。

仮に一人の大学生が、1年毎に同じイベントに参加していった場合、第1段階から第3段階に至るには3年、つまり3回の経験を積まなければならない。4年制大学では在学期間中での変化が見られようが、2年制の短期大学や専門学校などでは、第2段階で途切れてしまう恐れがある。主体性・自発性の発揮が無ければ、同段階で停滞する可能性もあるので、動機づけではなく、いかにエンパワーメント

表3 参加の3段階と3指標

段 階	コンセプト	キーワード	N指標群 内的指標 (不可視指標)			H指標群 半内・半外指標 (半可視指標)			G指標群 外面指標 (可視指標)		
			N 1	N 2	N 3	H 1	H 2	H 3	G 1	G 2	G 3
			参加の 姿 勢	知 の 深 度	価値の 基 準	参加の 範 囲	知 の 様 相	関心の 中 心	PDS 参加	知 の 所 在	情報の 流 れ
第1段階	参 集 Attendance	いあわす	消極的	知識	広さ	局所	断片的	こと	Dのみ	個人	一方向
第2段階	参 与 Collaboration	かかわる	積極的	認識	深さ	部分	関係的	ひと	Sまで	集団	双方向
第3段階	参 画 Commitment	にないあう	創造的	意識	高さ	全体	総合的	ば	PとT まで	組織	多方向

\* T : Tradition (伝承)  
(林義雄, 2004年)

を高揚させるかが鍵となろう。また、第3段階「参画」では、表3にあるようにG指標群の「PDS」(Plan-Do-See) サイクルに“Tradition”(伝承)が付加されるので、下の学年にどのように引き継いでいくかも注目される。前述のように、No5とNo8の学生は、それぞれ第3段階、第2段階に位置するといえる。特にNo5の学生は、No19の学生をモデルとしたことを述べたが、逆にNo19の学生からすれば、No5に対する運営上のアドバイスに“Tradition”の要素が含まれていたことになろう。

手づくりまつりを継続して開催してきたことにより、様々な段階の学生が存在したスタッフ集団を有することは、大きな財産であるとも言える。このような「参加」の段階を基にして、準備過程のプログラムを企画・編成する学生教育の実施が望まれる。

大学の地域貢献に関する取組みが広がる中で、単に貢献度を追い求めるものも少なくない。しかし、学生たちをどのように育んでいくかという、学生教育の視点に立った地域活動の展開に、教育機関としてのもう一方の使命があるのではないだろうか。その意味でも、今回対象とした手づくりまつりのような地域活動の実践から、「参加」という視点で今後の学生教育の示唆を得た。まだ緒についた研究であるが、実証的な検証については、今後の課題としたい。

[付記] 本研究で実施したアンケート調査では、学生スタッフ・講師など個人名の回答を要する質問があった。今回は匿名性を考慮し、個人名は必要に応じて回答中のイニシャルで表記した(表2)。

《注》

1) 文部科学省ホームページ「現代GP審査と選定」  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kaikaku/gp/005.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/gp/005.htm)

2) 「子どもの遊びと手の労働研究会」は、“子どもの手が虫菌になっている”という手の不器用さに問題意識を持った保育士・教員・学識経験者・保護者らが中心となり、1973年に全国組織として発足した。鳥取支部は1996年に組織され、翌97年より毎年「五月だ!! 因幡・伯耆の手づくりまつり」を、鳥取県下で開催している。なお、東部地区で開催する場合は「因幡の手づくりまつり」、中・西部地区で開催する場合は「伯耆の手づくりまつり」と称する。2006年6月10日には第10回大会が開催され、動員数1,400名に及んだ(於:鳥取県立県民文化会館)。この種のイベントとしては、全国最大規模になっている。

3) 回答学生の所属中「鳥取大学地域学部」(No3, 4, 17, 18)の学生は、2004年度に「教育地域科学部」を改組して誕生した新学部の在籍である。「鳥取大学大学院」(No19, 23)は、いずれも「教育学研究科」に在籍した学生である。「鳥取短期大学専攻科」(No10, 15)は、「幼児教育学科」(現:幼児教育保育学科, 2006年度~)を卒業後に「専攻科福祉専攻」へ進学した学生である。

4) No8の学生は、「学生時代に子どもたちを招いているいろいろなイベントを行うボランティア活動に参加しましたが、子どもたちとのふれあいはもちろん、保育士をめざしている他の大学の学生たちと将来の仕事について話し合えたことはとても有意義でした」と、卒業後に語った。保育士という同じ目的を志す他大学などの学生と語り合うという機会が、手づくりまつりのような活動を通して得たことを、自身の財産のように捉えている。

5) 林義雄『「学習する組織」を体験的に学ぶプログラムの可能性—大学における参画授業の実践から—』日本社会教育学会編『日本の社会教育第48集・成人の学習』東洋館出版社, pp. 241-252, 2004年。



2004年6月～7月

「第8回 五月だ！伯耆の手づくりまつり」への参加に関する調査

お願い：調査用紙への回答・記入につきましては、他の学生と相談せずにお一人でお願ひします。なお、回答に際しては該当する項目に「○」をしたり、必要事項を記入してください（矢印→の項目を含む）。

・回答者氏名：( ) 歳 性別 ( 男 ・ 女 )  
 ・回答者所属：( ) 大学・学院 ( ) 学部・学科・大学院 ( ) 年  
 ・参加アース：1) ものづくり・遊びアース → アース名 ( )  
 2) 受付  
 3) その他 ( )  
 ・参加回数：2004年5月開催の手づくりまつりには ( ) 回目の参加  
 事前の打ち合わせには、計 ( ) 回参加

設問A：「伯耆の手づくりまつり」への参加動機など

問1：今回の「手づくりまつり」(2004年5月22日実施)への参加について、そのきっかけをお答えください。

- 1) 教員から誘われたから → その教員の名前をお書きください ( )
- 2) 友達から誘われたから → その友達の名前をお書きください ( )
- 3) その他 ( )

問2：問1に関連し、今回参加されるに当たり、どのような思いで参加されたかをお書きください。

( )

設問B：「伯耆の手づくりまつり」の準備過程について

問3：当日までに、ものづくりや遊びのアースの講師(職人)のところを訪問した回数をお答えください。

( ) 回

問4：事前に講師(職人)のところを訪問したことについて、どのように思いましたか。

- 1) 訪問したことはよかった
- 2) 訪問する必要はなかった

1)・2) それぞれの理由をお書きください。

( )

問5：当日担当されたものづくりや遊びの方法(アース外の方は、以下その担当箇所の作業内容と置き換えてください)を、誰から教わりましたか。教わった内容と教わった人の名前(名前が挙げられない場合は、「〇〇大学の〇年の人」とか「〇〇の担当者」という様にお書きください)、印象に残っていることをお答えください。

教わった内容	教わった相手	印象に残っていること

設問C：「伯耆の手づくりまつり」当日について

問6：あなたが担当されたアースで、ものづくりや遊びの指導に際する事柄についてお聞きします。

- 1) 作品製作で工夫したことをお答えください。

( )

- 2) 教え方で工夫したことをお答えください。

( )

- 3) 指導の際に、思ったように教えることが出来たかをお答えください。

- a) 思ったように教えることが出来た
  - b) 思ったように教えることは出来なかった
- a)・b) それぞれの理由をお書きください。

( )

問11：手作りまつりに参加して、あなた自身のためになっことは何でしたか。

設問D：今後の「因幡・伯耆の手作りまつり」への期待・要望

問12：次回(2005年実施予定)の手作りまつりへの参加についてご回答ください。

- 1) ぜひ次回も参加したい。
- 2) 分らない。
- 3) 次回は参加しない。

1)～3)の理由をお書きください。

問13：今後の、「因幡・伯耆の手作りまつり」に期待される事柄、また実際に参加する中で感じて欲しい事柄などを自由に記入ください。

自由記述

※調査にご協力いただきました、ありがとうございます。

問7：当日参加されていた親子についてお聞きします。親と子どもの間わりの中で、あなたが気付いた印象的な伝え方がありましたか。

- 1) あった

具体的にその内容をお書きください。

- 2) なかった

問8：当日参加されていた子どもから、あなたが気付かされたことがあればお答えください。

問9：準備段階・当日で困ったことがありますか。あった場合はその内容と相談相手をお書きください。

- 1) 困ったことはなかった
- 2) 困ったことがあった

困ったことの内容	相談相手(具体的に)

問10：事前の準備や当日の活動するにあたり、あなたがモデル(手本)にした人がいましたか。

- 1) モデルにした人がいた  
→ それは誰ですか。具体的に名前を挙げてください。( )
- 2) モデルにした人ははいなかった